

高木博志
編

近代日本の歴史都市

古都と城下町

思文閣出版

近代日本の歴史都市——古都と城下町——◆目次

序——歴史都市の歴史性……………高木博志 3

I 古都——京都・奈良・伊勢

修学旅行と奈良・京都・伊勢……………高木博志 29

——一九一〇年代の奈良女子高等師範学校を中心に——

郡区町村編制法と京都——区制論の深化のために……………小林文広 63

創建神社の造営と近代京都……………清水重敦 93

一八九三年オーストリア皇族の来京……………高久嶺之介 115

明治期「洛外」の朝廷由緒と「古都」……………谷川 穰 143

——洛北岩倉の土器職人・榎木丸太夫の日記から——

幸野棟嶺《秋日田家図》について——歴史画としての風景……………高階絵里加 169

橋梁デザインに見る風致に対する二つの認識……………中川 理 203

——京都・鴨川に架け替えられた四つの橋をめぐって——

京都の風致地区指定過程に重層する意図とその主体……………中嶋節子 231

歴史を表象する空間としての京都御所・御苑……………	河西秀哉	261
権門寺社の歴史と奈良町の歴史との間……………	幡鎌一弘	287
平城神宮創建計画と奈良——「南都」と「古京」をつなぐもの——…	黒岩康博	321
「神都物語」——明治期の伊勢……………	ジョン・ブリーン	351

II 城下町——金沢・仙台・尼崎・岡山・三都

「城下町金沢」の記憶——創出された「藩政期の景観」をめぐって——…	本康宏史	387
誰が藩祖伊達政宗を祀るのか……………	佐藤雅也	413
武士と武家地の行方——城下町尼崎の一九世紀……………	岩城卓二	439
帝国の風景序説——城下町岡山における田村剛の風景利用……………	小野芳朗	479
高等中学校制度と地方都市——教育拠点の設置実態とその特質……………	田中智子	515
近代「三都」考——三府と都市制度……………	丸山 宏	547

近代古都研究班のあゆみ

索引（人名・事項）

執筆者紹介

※一八七三年一月一日以降を西暦であらわし、それ以前は元号での表記を主とした。

序——歴史都市の歴史性——

高木博志

円山公園の桜は京都の文明開化の象徴であった。幕末までは、祇園社の執行・宝寿院の築地塀越しにわずかに咲きこぼれる程度であった。神仏分離をへて、宝寿院が失われたあとに一人立つ枝垂れ桜は、円山公園を代表する市民の風景となった。円山公園ではかがり火が焚かれ、中村楼・世阿弥・自由軒などの外国人向けホテルや西洋料理屋が並び、そしてモダンな都踊りが祇園ではじまるなど、新たな古都京都の枝垂れ桜という伝統種の歴史性が東山を背景に開花した。そして古都京都イメージとともに、枝垂れ桜は詩歌にうたわれ、富田溪仙や東山魁夷に描かれる。また古都京都の古典文学にみられる女性性の観光言説は、二〇世紀になって再構成されるものであるが、とりわけ一八九五年の平安遷都千百年記念祭・第四回内国博覧会を契機に、京都府知事北垣国道の別荘を本堂として再興された祇王寺は、『平家物語』の祇王・祇女の悲恋の物語を視覚化するものであった。それは本書カバーを飾るように、二一世紀の観光イメージを代表するものになっている。⁽¹⁾

近代日本において「歴史」を読み込むことは、日本文化が物質ではなく精神に特色があるという言説とともに

展開してきた。早くは一八九〇年代の岡倉天心の平安絵画における形と精神の「相合」がイタリア絵画などの写実性とは異なるとの議論にはじまり、今日の世界遺産・奈良ドキュメント（「オーセンシティシティに関する奈良ドキュメント」一九九四年）にみられる西欧の石造物の不変なオーセンシティシティ（真正性）とは異なり日本の木造建築には復元・修復による精神性の維持があるとの言説にいたる。⁽²⁾近藤誠一文化庁長官は、「日本はもの自体ではなく、ものの裏にある歴史とか価値観とか事実とか人間の精神性といったものが重要なです」とし、西欧の写実主義と差異化し「日本画はそうではなくて、それはあくまでもヒントであって、目に見えた風景を一度評価してそこで自分で考えた一つのものを描くのが日本画だ」との京都画壇の上村淳之の言葉を紹介する。⁽³⁾また本書高木論文でみるように、一九一一年に奈良女子高等師範学校の地理歴史部の生徒は、欧米の自然を征服する「物質的文明」や科学技術に対して、京都の生活は、名所旧蹟に恵まれ、自然と融和する「優美高尚」で「幽雅な地」であると論じる。こうした精神性や自然との融和や見えない意味を読み込む日本文化をめぐる言説は、近代日本が、物質文明や科学技術を謳歌する欧米や中国と自らを差異化させつつ、都市をも価値づけた歴史性のありようでもあった。

ここで歴史都市とは、近代国家である日本の「歴史」を体现する都市と考えたい。⁽⁴⁾そして近代都市における「歴史」とは、国家と地域社会の葛藤をはらみながら、その時代時代再構成されるものである。⁽⁵⁾前近代の歴史性をどう近代都市が背負い葛藤を生じたかは、多様な展開をとげてゆくことになる。

たとえば京都でいえば、東京遷都後の一八八〇年代の京都御苑などの皇室に関わる文化的伝統を復興する「旧慣」保存の時代や、日清日露戦間期の平安遷都千百年記念祭や第四回内国勸業博覧会の時代、明治末年の三大事業の時代、第一次世界大戦後の現代都市につながる都市計画の時代において、その顕現のありようが時代時代によって模索された。

歴史都市京都を例にとづきたい。明治二年（一八六九）の東京遷都は平安時代以来の権門社寺や門跡寺院、畿内の在地社会と朝廷との関係を断ち切り、東京を中心とした「全国一視」という等距離な新しい京都と皇室との関係性が模索された。東京遷都という朝廷の移動によって、「文明開化」状況ともあいまって、明治四年の皇室の神仏分離は進み、京都の「歴史」や「伝統」は顧みられなくなった。それが一八八〇年代の立憲制の形成期になると、岩倉具視らが中心になって、京都御苑の整備を核とする古都京都の復興策が展開し、皇室関係の社寺や祭礼の復興を行った。一八八九年（明治二二）の大日本帝国憲法の発布、明治新宮殿の落成をもって、帝都東京と、古都奈良・京都、神苑が整備された伊勢など、後述するように国土における歴史都市の空間配置が構想された。幕末、元治元年（一八六四）のどんどん焼け以来の京都の衰微に対し、一八九五年には、京都の地域社会から発せられた都市再興ビジョンは交錯し、伝統的な公家社会や西陣に基盤を置く勢力に対して、鴨川地区の新興工業者・実業家を中心になって第四回内国勸業博覧会の誘致をともなう平安遷都千百年記念祭を挙行した。⁽⁶⁾

一八九七年（明治三〇）に東京・京都・大阪の三市の、市制（二八八八年）以来の特例は廃され、内貴甚三郎が民選市長となり、彼が京都で示した歴史都市のマスタープランは、北は西陣などの産業維持、北西には教育施設、西には会社・商館を配し、南は宇治川の電力で工業地化、そして東は風致を保存し、とりわけ東山の風致は、国際社会に向けた「京都ノ繁栄策」と位置づけた。⁽⁷⁾一九〇八年（明治四二）から始まる三大事業（第二琵琶湖疎水建設、上水道整備、道路拡張・市電敷設）の時代になると景観の美しさをめざす「都市美」が追及され、本書中川論文が明らかにするように鴨川にかけられる橋の意匠や東山の開発論議があらわれる。これらは単なる開発か保護かという二者択一ではなく、大きくは都市構想の相違に由来した。⁽⁸⁾

都市計画の時代の一九二一年に、馬淵鋭太郎市長は、都市計画区域を設定するとともに「工業都市たると共に遊覧都市たらん」と述べ、古い都の「風致」を残しつつも、南部・西部や伏見方面を工業都市とする構想を示

(9)

した。本書中嶋論文が示す風致地区の法的整備における重層するビジョンや、丸山宏が指摘する木屋町の街路拡張案をめぐる史蹟名勝天然紀念物指定制度と都市計画との確執、あるいは京都市土木局の「京都市計画展覧会」を通じた都市計画における平安京の都城以来の「歴史」の検討、などにあらわれるように、都市ビジョンは繰り返し構想された⁽¹⁰⁾。また都市計画法に基づき、一九三二年（昭和七）には京都駅前から京都御苑にいたる一帯や、鴨川周辺、東山方面などを、「古典的風致」の「京都風の建物」を残す美観地区とする構想をもった。⁽¹¹⁾

そして本書高久論文が明らかにする明治期の外資がめぐった名所群は、大正期以降の修学旅行では高等師範学校から尋常小学校までがまわる国民的な名所群となつてゆき、京都市編纂部『京華要誌』（一八九五年）、京都市編纂『新撰京都名勝誌』（京都市教育会、一九一五年）、京都市編纂『京都名勝誌』（京都市役所、一九二八年）などに記述された。大衆社会状況下で、一九三〇年には京都市観光課が設置され、一九三一年の伏見市を編入する「大京都市」の成立により、陸軍第一六師団も包摂し「軍都京都」の様相も帯びた。

「国風文化」「安土桃山文化」の京都イメージが生成し都市ビジョンにもあらわれた一方で、京都府や京都市の都市構想は戦前期においては工業都市をめざす姿勢が強かった。一八九五年（明治二八）の平安遷都千百年記念祭や一九二八年（昭和三）の昭和大礼は、行政や商工団体から見れば、皇室を利用した地域振興であり、観光行政の対象でもあった⁽¹²⁾。戦前の模索を経て、「古都」という言葉とその貴族的で女性的な表象自体は、女性観光客が一九七〇年代に男性をうまわることを見ても、戦後の高度経済成長期になって一般化し定着したとおもわれる⁽¹³⁾。また多くの地方城下町では日清戦争後の世紀転換期に、士族層に代わつて商工業者が市会を運営してゆくが、彼らが主導する近代都市行政と記念祭施行や城跡の公園化とのかねあい、あるいは都市計画の展開を戦後まで射程に入れて考察することなど、残された課題は多い。

二

現代においても都市の歴史性は、観光や地域振興における重要な資源であり、景観や文化財の保護を目的とした多様な法的保護の対象となっている。そして古都と城下町という歴史都市を、本論集で問題にするのに象徴的なのは、文化財保護法の重要文化的景観に都市が指定されたのが、宇治（古都）と金沢（城下町）という二事例のみであることだ。

文化財保護法の重要文化的景観は二〇一二年現在で三〇件の登録があるが、農林水産業にかかわるものがほとんどで、都市を対象としたものでは、近世城郭をランドマークとして地方都市を代表する「金沢の文化的景観―城下町の伝統と文化」と「宇治の文化的景観」の二件のみである。文化的景観には、見えない意味や物語を読み込んでゆく特色がある。したがって、まさに現代において再構成される「歴史」の問題である⁽¹⁴⁾。宇治の文化的景観は、「宇治川の流れを骨格として、その兩岸に古来より人々が住み、心の救を求めて平安貴族が社寺を造営し、特色ある宇治茶に関する生業と文化を育ててきた」ことが指定の理由であり、金沢は「かつて百万石を誇った加賀藩前田家が築き上げた城下町の風情」が「金沢らしさ」の意義として語られる⁽¹⁵⁾。

世界文化遺産（日本は一九九二年に加入）の制度そのものが政治性をおびたものであることは、日本の指定対象を見ても明らかである。一九九三年の法隆寺と姫路城、九四年の古都京都の文化財と、最初期の登録が、明治期以来日本の「文明」の起源とみなされた法隆寺、城下町のランドマークを代表する姫路城、「日本固有」の貴族文化を体現する京都であったように、登録対象には日本の国家が選び取った「歴史」が顕現する。

そして今日、本書本康論文が明らかにするように、金沢は城下町の歴史性を前面に出して世界遺産登録に向け、て地域おこしをする。また一九九四年二月に登録された世界遺産「古都京都の文化財」では、京都は「一〇〇

索引

都踊り	3
御幸通	367, 373
民権運動	155, 156, 161, 164
む	
室町尋常小学校	35
め	
「名教的史蹟」	29, 37
『明治祭式』	358
明治神宮	403
『明治庭園記』	400
明治天皇	355
明治天皇聖蹟	17
明和上知	446
も	
桃山御陵	13, 44
桃山式	218, 220
森(杜)の都	413, 416
文部省	516, 519, 520, 522~526, 528, 530, 531, 533~536
や	
也阿弥(ホテル)	132, 225
弥栄尋常小学校	35
『大和志料』	288
『大和名所図会』	310, 324
ゆ	
由緒論	290
由良川	222
ユリノキ	225
よ	
横山家庭園	405
吉田家	292
ら	
洛外	145, 162, 165
羅城門跡	225
り	
陸軍第九師団	408

陸軍第一七師団	486
里道	217
両口屋	365
療病院	108
緑地計画	240, 249, 251, 252
れ	
歴史画	182~187, 190~194
歴史都市	4, 143, 387, 413, 414
「歴史都市ものがたり」	414, 417, 418, 435
歴史まちづくり法	8
ろ	
「六勝」	404
六大都市	555, 557, 569
六甲山	226
わ	
「和州志(大和名勝志)」	299
渡物屋台	423, 425, 428, 429, 434
和洋折衷	212, 224

- 第四回内国勸業博覧会 4, 97
 台湾館 216
 台湾総督府 210, 216
 台湾総督府(囑託)技師 214, 215
 高島屋呉服店 53
 滝川高等女学校 30
 建勲神社 94, 95, 97~99, 110
 辰野式 215
 伊達政宗公三〇〇年祭(政宗没後三〇〇年祭) 429, 430
 伊達政宗銅像(騎馬像) 429, 430
- ち
- 地誌編纂 290
 地租改正 151, 164
 秩祿処分 165, 449
 地方委員会 235, 241, 242
 地方三新法体制 154
 地方税規則 530
 中学校令 516, 533, 534
 徴古館 55, 373, 375
 「朝鮮美術史」 10
 町代 307
 「序中漫録」 299, 300, 303
 長途遠足 32
 直観教授 34, 57
 鎮台 415
- て
- 帝国大学 515, 516, 528, 532
 鉄筋コンクリート 211, 215, 221, 222
 寺町通 209
 癩狂院 108
 天平文化顕彰運動 342
- と
- 陶器試験場 50
 東京開市三百年祭 11
 東京勸業博覧会 216
 東京市区改正 556, 557, 559, 565
 東京師範学校 32
 東京女子師範学校 40
 東京大学予備門 519
 東京帝国大学 210
- 東京帝国大学建築学科 214, 216
 東京奠都 159, 162, 163
 東京都制 553, 554
 東照宮 483, 484
 東大寺 294, 295, 308, 309
 東北三大(夏)まつり 417
 道路拡築 204, 205
 特別市制 552~556, 563, 564, 569
 都市計画京都地方委員会 234, 237, 239, 240, 243~247, 249
 都市計画区域 233, 237~240, 246
 都市計画法 6, 231~234, 487, 490, 494, 502, 557, 559
 都市公園 397
 都市美 208, 232, 253
 『独国ノ修学旅行』 33
 鳥見山中靈時 48
 豊受宮 357
 豊国神社 15, 94, 95, 97, 98, 110
 豊国神社唐門 106, 107
- な
- 内宮 356, 369, 371~373, 375
 内務省 231, 233~235, 239, 240, 242, 243, 245~249
 長崎港湾改良事務所 221
 梨木神社 94, 95, 97
 奈良大極殿陞保存会 339, 341
 「奈良町中改帳」 307
 奈良奉行 294, 297
 奈良奉行所 301
 「奈良坊目拙解」 288, 303, 306, 307
 奈良町 289, 297
 楠公生誕地 38
 南朝史蹟 37
 南都 321, 323, 340~342
 「南都七郷記」 307
 『南都名所集』 303, 306
- に
- 新嘗祭 357, 358
 「逃げる名望家」 154, 156
 西村捺染工場 52
 西村輸出絹織物商店 52
- 二条離宮 53
 二之瀬橋 221
 日本三名園 397, 399
 「日本全国名所図絵」 395
 『日本土木史』 215
 日本橋 212
- の
- 農業館 55, 372, 373, 375
 農商務省 172~175, 180
 野々宮 144, 158, 160
- は
- 廃城令 443, 449
 廃仏毀釈 375
 旅籠屋 363, 366
 万世一系 355, 358, 375
 藩祖伊達政宗三五〇年祭 433
 藩祖政宗公二五〇年祭 425, 431
- ひ
- 東廓 393
 東山(岡山) 484, 486
 東山(京都) 207
 美観地区 240, 245
 日比野捺染工場 52
 日比谷公園 404
 平等院 10
 琵琶湖疏水 44, 204
 琵琶湖第二疏水 207
 賓日館 55
- ふ
- 風致 206, 479, 480, 493, 505
 風致地区 231~233, 235, 237~254
 風致保安林 492, 494
 伏見区 66, 70, 79
 二見館 55
 古市 366, 367, 373
- へ
- 平安宮 97
 平安宮八省院 105
 平安建都千二百年記念祭 9
- 平安神宮 31, 94, 95, 97, 104, 327, 340, 349
 平安遷都千百年記念祭 4
 平安遷都千百年記念祭記念殿 97, 105
 『平安通志』 287
 『平家物語』 48
 平城宮址保存会 336
 平城宮跡 321, 322, 339
 平城京 289
 「平城趾跡考」 288
 平城神宮 321, 322, 339
 平城神宮建設会 322, 323, 326, 329, 331, 339
 平城遷都千百年祭 14
 平城電気軌道 340
 『平城坊目考』 287, 288
 別格官幣社 93, 98
- ほ
- 報徳思想 176, 181
 「朋友」(唱歌) 56
 ボーギー式電車 55
 保護林 494
 保勝運動 398
 保津川下り 120, 121, 127, 131, 133
 本願寺唐門 107
- ま
- 前田侯爵邸庭園 403
 前田利家三百年祭(藩祖三百年祭) 11, 407
 政宗公生誕四〇〇年祭 432
 松焚祭(どんと祭) 417
 丸太町通 209
 丸太町橋 209, 210, 213
 円山公園 3, 207
 万善堂 422
- み
- 都跡村 324, 325, 332, 336, 342
 三霊屋(廟所) 432
 操山 481, 492
 三越呉服店京都支店(染色所) 52, 53
 水戸藩 292, 294

- け
 京阪電鉄 206
 ケーブルカー 226
 外宮 55, 356, 369, 371~373, 375
 ケヤキ並木 416
 『源氏物語』 48
 京都 439, 441
 県道 217
 元明天皇像 337~339
 「元要記」 293
 兼六園保勝会 402
 兼六公園 398
 「兼六公園保勝私見」 403
- こ
 公園都市 237, 238
 「公園保勝意見」 399
 広告物取締法 208
 耕作図 190, 191, 193, 194
 皇室陵墓令 13
 皇大神宮 357
 高等学校(旧制) 515, 516, 528, 537
 公同組合 207
 高等工芸学校 49
 高等中学校 19, 515~537
 興福寺 289, 294, 295, 308
 光明院 294, 296
 「広大和名勝志」 310
 後樂園 18, 19, 406, 481, 484, 488, 489,
 501, 502
 護王神社 94, 95, 98, 99
 古京 321, 323, 341, 342
 国際観光局 39
 国道 217
 国風文化 8
 国民公園 269, 279
 国民道徳 58
 国立公園 208, 480, 493, 497, 499, 501,
 502, 504
 御後園 481, 483
 古社寺保存技師 224
 古社寺保存法 12, 109
 五条大橋 217, 218, 222
- 五条通 220
 古典文学 58
 古都 143, 145, 165, 313, 387
 古都保存法 8
 金地院 107, 110
- さ
 犀川大橋 389
 嵯峨野 44
 佐紀 324, 331, 335, 336, 340, 341
 佐渡屋 365
 産業基金 82~84, 86, 88
 「産業と観光の大博覧会」 395
 参宮鉄道 361, 362
 三条大橋 217, 218, 221, 222
 三条通 220
 三大事業 5, 16, 204, 206, 218, 220,
 222~224, 226
 三都 20, 547~550, 569, 570
 三府 548~550, 558, 559, 568~570
- し
 市域拡張 562~566
 市街地建築物法 234, 239
 シカゴ・コロンプス万国博覧会(シカゴ
 万博) 9, 169, 171, 172, 174, 180,
 182, 186, 192, 193
 市区改正 487
 四条大橋 209~211, 213~218, 220, 221,
 223, 226
 四条通 209, 223
 四條畷神社 38
 閑谷神社 484
 史蹟名勝天然記念物 17, 479, 480, 491,
 505
 『史蹟名勝天然記念物』 495
 史蹟名勝天然記念物保存法 243, 247,
 341, 405, 406, 494
 師団 415
 七条大橋 209, 210, 213~215, 217, 218,
 220, 226
 七条通 209
 市電敷設 204, 205
 祠堂 421
- 紫溟会 529
 下京区 66, 70, 79
 借景 489
 ジャパン・ツーリスト・ビューロー 39
 『修学旅行京都史蹟案内』 38
 「習見聴診集(実眺記)」 296
 重要文化的景観 7
 聚楽第 109
 純日本庭園 402
 城下町 387, 388, 414
 城下町尼崎 440, 446~448
 将軍御成 398
 招魂祭 424~428
 招魂社 484
 昭忠会 428
 昭忠標(昭忠碑) 428
 象徴天皇(制) 270, 273, 275, 278, 281
 青蓮院 220
 昭和大礼 266
 諸学校通則 527, 535
 白峯宮 94, 95, 101, 102, 111
 史料論 291
 シロアリ対策 215
 神苑会 18, 31, 358, 359, 368, 369, 372,
 375~377
 神宮司庁 362
 心齋橋 212
 真誠講 364, 365
 新・仙台すずめ踊り 434
 神都 367~369, 373, 376, 377
 『神都名勝志』 352, 354
 『新版金沢明覧』 393
 神武天皇聖蹟 503
 神武天皇陵 12, 31
 森林法 247, 492, 494
- す
 瑞巖寺 420
 瑞鳳講 426
 瑞鳳山 424
 瑞鳳寺 414, 420, 422, 426
 瑞鳳殿 414, 420, 422, 432
 朱雀門跡 225
 鈴廻舎 57
- 雀踊り 431, 433
- せ
 生魚市場 440, 447
 生魚問屋 440, 466, 467, 470
 「制限図」 94, 100, 102, 104, 106, 110, 111
 濟々饗 529
 西南戦争 516, 529
 世界(文化)遺産 7, 409
 関口台町国民学校 29
 セセッション 212, 215
 戦死者慰霊 424
 仙台青葉平和祭 430
 仙台青葉まつり 418, 431, 433~435
 仙台駅 415
 仙台開設三百年記念祭 11, 18, 427
 仙台三大祭り 417
 仙台七夕まつり 417
 仙台祭 423, 427
- そ
 創建神社 93, 322
 造士館 535
 総督府営繕課 215
 疏水運河 220
 祖先祭祀 421
- た
 大大阪 560, 565~568
 大学分校 519
 大京都 560, 561, 563, 564
 大区小区制 144, 148
 大極殿保存会 332
 第三高等学校 33
 大赦令 11
 大乘院 295
 大正大礼 30, 38, 263
 大東京 560~563, 567
 大徳寺唐門 107, 109
 大日本農会 163
 大廟 352, 358, 359, 368, 376
 『太平記』 29
 大名庭園 397, 398, 489
 大名庭園系公園 406

鈴木敬一	235
鈴木一	274
崇徳上皇	94
せ	
関口勲	233, 235, 241, 242, 244, 245
関野貞	10, 14, 324, 328, 330, 343
関一	567
舌司馬太郎	148, 151, 153
千田貞暁	124, 127, 131
た	
高崎五六	483
高田十郎	15
高嶺秀夫	32, 40
多賀谷健吉	46
竹内嘉作	235, 243, 244
武田五一	222, 224
武田久吉	17
武部直松	524
竹村藤兵衛	72, 73, 75, 76, 87
辰野金吾	215
辰巳利文	15
伊達家	523, 535
伊達尊親	442, 460, 472, 473
伊達忠宗	421
伊達綱村	421
伊達政宗	18, 413, 418~420, 423, 432
伊達宗基	422
田中善右衛門	73
田中光顕	329
棚田嘉十郎	321~323, 325, 326, 329~333, 335, 338~340
玉井定時	299, 302, 307
田村剛	17, 19, 250, 253, 405, 406, 480, 489~501, 503~506
ち	
小子部栖経	48
つ	
塚本松治郎	330~333, 335~338
辻新次	525

て	
寺崎新策	222
と	
戸川残花	11
徳川家光	483
徳川家康	291
徳川光圀	294, 295
徳川義直	292
徳川頼房	292
徳田五郎兵衛	466, 467
戸尾善右衛門	325, 330, 333, 335, 340, 348
富岡敬明	528~530, 532
富岡鉄斎	174, 175, 181
富田溪仙	3
外山正一	182~184, 186, 187, 191
豊臣秀吉	94, 97, 218
な	
内貴甚三郎	5, 224, 225, 237
内藤湖南	567
長岡護美	529
永島福太郎	312
中島来章	170, 191
永田兵三郎	226, 234, 246, 247
中村栄助	76, 85, 552
に	
ニコライ(ロシア皇太子)	120, 122, 123, 125, 126, 134
西田直二郎	567
西野文太郎	359
西村捨三	328
二条憲乗	294, 295, 307
二鐘亭半山	547
蜷川虎三	279
蜷川式胤	159, 160
二宮尊徳	16, 169, 175, 177~181, 186~188, 191, 192
の	
野尻精一	32, 40

野間守人	234, 238, 239, 249~251
野村一郎	215
野村彦四郎	532
は	
畠田繁太郎	441, 442, 447, 460, 470, 471
浜田耕作	40, 567
濱田恒之助	335
林羅山	292
原敬	174
原田直次郎	184
原田碧	221, 222
原熙	403, 405
ひ	
東山魁夷	3
土方直行	332, 337
土方久元	330
秀能井在守	293
日野西資博	265
ふ	
フェノロサ, E	170
フェルディナント, F	15, 116
福島みさき大夫	360, 363, 364
福地復一	55
藤村惇叙	302
藤村作	567
ほ	
北条太兵衛	73
ボードイン, A	531
細川家	529, 530, 535
堀之内高潔	327, 328
本庄栄治郎	547
本多静六	17, 404, 480, 490, 495
ま	
前田家	525, 526, 535
前田利家	392, 395
横村正直	153, 263
真館貞造	524
松方正義	530
松木美彦	357

松平正直	522
松田如閑	292, 293
松野新九郎	151, 155, 164
松室重光	224
馬淵鋭太郎	5
み	
三浦周行	38, 265, 567
三上参次	567
水木要太郎	14, 32, 40, 43, 46, 54, 325, 328, 343, 345
溝口信勝	294, 298, 299
溝辺文四郎	321~323, 326, 327, 329, 331~333, 336~338
宮武外骨	550
明珍恒男	337
む	
村井古道	288, 303
村井道弘	303
村島理平	49
村戸賢徳	326, 327, 341, 344
め	
明治天皇	157
も	
森有礼	359, 371, 528~530, 532, 534
森山松之助	210, 211, 213, 214, 216
や	
安場保和	532
山内勝明	122, 127, 129, 131
山県有朋	527, 530
山川健次郎	39
山口権三郎	527
山口孝吉	216
山下鹿藏	325
山高信離	179
山田敬中	399
山本覚馬	156
ゆ	
結城宗広	56

索引

*本索引は、本文中の人名・事項について重要度の高いものを検索するために作成した。
したがって網羅的な索引とはなっていない。

【人名】

	あ		う
青木新治郎	326, 327	井上秀二	211, 222
明石博高	108	今出河一友	308
秋里籬島	310, 324	岩城準太郎	46
飛鳥井雅信	17, 270, 274~278, 281	岩倉具視	5, 13, 31, 147, 263
足立正聲	329	岩村高俊	525, 526
荒木田家	356		
有栖川宮熾仁	31, 371		
アルベルティ, L	184		
	い		
猪飼喜右衛門	73, 75	上田万年	567
伊賀駒吉郎	568	上原敬二	17, 494, 496
イギリス皇孫(アルバート・ヴィクター、 ジョージ)	116, 120, 121, 125, 131, 134, 135	上村淳之	4
池田章政	484, 485	植村禹言	310
池田忠雄	481	宇喜多直家	481
池田綱政	481, 482	宇喜多秀家	481
池田詮政	485	鶴久森経峯	504
池田宏	234, 240, 245, 559, 569	碓井小三郎	287
池田光政	483, 484	梅原末治	504
池田茂政	484, 485	浦田長民	355~358, 368
石崎勝蔵	323, 326, 333, 343		
石澤吉麿	56		
市川之雄	375, 486		
一木喜徳郎	556		
市村光恵	226		
伊藤朝往	157, 160, 162		
犬丸實	275		
井上毅	529		
	お		
		大木田松江	460
		大久保利貞	329, 345
		大久保利通	565
		大関増公	299
		太田小三郎	367, 368, 371, 373
		大森鐘一	206, 207, 226
		大森治豊	532
		岡倉天心	4, 9, 14, 172, 184, 186, 187, 192
		岡島彦三	325, 327, 328, 336
		岡田播陽	566, 567
		岡田宗春	302
		岡本茂彦	191
		岡本助左衛門	36
		小川治兵衛	405
		小川琢治	567
		小沢次郎	369, 371, 400
		織田信長	94, 97, 99, 218
		小野新太郎	43

折田彦市	525		
	か		
賀川豊彦	569, 570		
鹿嶋則文	361, 368, 371		
片岡安	253		
片山東熊	375		
片山米三郎(正中)	73, 75, 76, 123		
金井俊行	531		
金沢昇平	287		
金森得水	144		
金子堅太郎	532		
上島信三郎	44		
神近市子	58		
河合辰太郎	402		
川路聖謨	311		
川島甚兵衛	50		
河瀬寛一郎	524		
川端道喜	160, 161		
神戸正雄	563, 564		
桓武天皇	94, 97		
	き		
菊池容斎	185		
木崎愛吉	565, 566		
北浦儀十郎	330		
北垣国道	3, 176, 177, 192, 237		
喜田貞吉	337, 338, 567		
城多虎雄	551, 553		
北村徳太郎	235, 240~242, 249~251		
木戸孝允	565		
木村惇	271		
清岡長言	264, 265		
	く		
九鬼隆一	152, 172, 173		
久郷梅松	490~493, 502, 503		
日下義雄	531		
楠木正行	484		
久世宵瑞	287, 288		
久野留之助	216		
久保倉太夫	363, 364		
熊谷直孝	15, 73, 75		
黒板勝美	37, 40, 567		

クロウ, A	121		
桑野久任	46, 49		
	こ		
幸田成友	567		
幸田露伴	178, 179		
幸野稜嶺	169, 173, 174, 178, 186, 187		
神山鳳陽	174		
小早川秀秋	481		
小林精一郎	123, 124, 132		
後水尾院	146		
小森純一	472, 473		
今武治郎	333		
近藤磐雄	407		
近藤誠一	4		
	さ		
西郷菊次郎	206, 210, 211, 215, 224, 225		
西郷従道	552		
阪谷芳郎	561		
佐上信一	235, 245, 247, 248		
佐久間文吾	185		
桜井静	156, 157		
佐々友房	529		
佐々宗淳	295		
サトウ, E	118, 121		
榎木丸太夫(清延)	16, 143, 145, 146, 148~165		
榎木義延	151, 163, 165		
三条実万	94		
三宮義胤	122, 127~129		
	し		
椎原兵市	486		
塩川文麟	170, 191, 193		
重森三玲	278		
篠崎五郎	527		
柴田睦作	210, 211, 213, 215, 216		
島津家	535		
清水寅蔵	45		
新村出	567		
	す		
杉浦利貞	72, 73, 75, 76, 87		

中嶋節子（なかじま せつこ）

1969年生。京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。
『近代大阪の都市地主』（『近代とは何か 都市・建築・歴史シリーズ7』東京大学出版会、2005年）、
『管理された東山——近代の景観意識と森林施業』（『東山／京都風景論』昭和堂、2006年）、『都市祭礼
の最前線——大阪天神祭——』（『祭りのしつらい——町家とまち並み』思文閣出版、2007年）。

河西秀哉（かわにし ひでや）

1977年生。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了。神戸女学院大学文学部専任講師。
『「象徴天皇」の戦後史』（講談社、2010年）、『天皇制と現代化』（『日本史研究』582、2011年）、『近現代
天皇研究の現在』（『歴史評論』752、2012年）。

幡鎌一弘（はたかま かずひろ）

1961年生。神戸大学大学院文学研究科修士課程修了。天理大学おやさと研究所研究員。
『奈良の鹿「鹿の国」の初めての本』（共著、京阪奈情報教育出版、2010年）、『近世民衆宗教と旅』（編
著、法蔵館、2010年）、『語られた教祖 近世・近現代の信仰史』（編著、法蔵館、2012年）。

黒岩康博（くろいわ やすひろ）

1974年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。天理大学文学部歴史文化学科助教。
『「うまし国奈良」の形成と万葉地理研究』（『人文学報』89、2003年）、『高田十郎「なら」に見る近代大
和の「地域研究」ネットワーク』（『日本史研究』525、2006年）、『宮武正道の「語学道楽」——趣味人
と帝国日本——』（『史林』94-1、2011年）。

Breen, John（ジョン プリーン）

1956年生。Cambridge University 大学博士。国際日本文化研究センター教授。
『儀礼と権力 天皇の明治維新』（平凡社選書、2011年）、*A new history of Shinto*（共著、Wiley Blackwell、
2010）、『近代外交体制の創出と天皇』（荒野泰典他編『日本の対外関係7：近代化する日本』吉川弘文館、
2012年）。

本康宏史（もとやす ひろし）

1957年生。金沢大学大学院社会環境研究科学位取得。博士（文学）。金沢星稜大学経済学部教授。
『石川県の歴史』（共著、山川出版社、2000年）、『軍都の慰霊空間——国民統合と戦死者たち——』（吉
川弘文館、2002年）、『からくり師大野弁吉の時代——技術文化と地域社会——』（岩田書院、2007年）。

佐藤雅也（さとう まさや）

1959年生。立命館大学文学部史学科日本史学専攻卒業。仙台市歴史民俗資料館学芸室長・宮城学院女子
大学非常勤講師。
『祈りのかたち——宮城の正月飾り——』（共著、宮城の正月飾り刊行会編、日貿出版社、2003年）、『民
俗と市場——地域民衆の歴史的役割と文化的営為——』（中村勝編『市と鞆』、中央印刷出版部、1999
年）、『仙台田植踊』（『仙台市歴史民俗資料館調査報告書』30、2012年）。

岩城卓二（いわき たくじ）

1963年生。関西大学大学院文学研究科博士後期課程中退。京都大学人文科学研究所准教授。
『近世畿内・近国支配の構造』（柏書房、2006年）。

小野芳朗（おの よしろう）

1957年生。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。博士（工学）。京都工芸繊維大学大学院建築造形学
部門教授。
『〈清潔〉の近代』（講談社選書メチエ、1997年）、『水の環境史』（PHP新書、2001年）、『調と都市』（臨
川書店、2010年）。

田中智子（たなか ともこ）

1969年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。同志社大学人文科学研究所助教。
『近代日本高等教育体制の黎明——交錯する地域と国とキリスト教界——』（思文閣出版、2012年）、『明
治中期における地域の私立英学校構想と同志社』（『キリスト教社会問題研究』60、2011年）、『幕末維新
期のアメリカ留学——吉田清成を中心に——』（山本四郎編『日本近代国家の形成と展開』吉川弘文館、
1996年）。

丸山 宏（まるやま ひろし）

1951年生。京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。名城大学農学部教授。
『造園の歴史と文化』（共著、養賢堂、1987年）、『近代日本公園史の研究』（思文閣出版、1994年）、『近
代京都研究』（共編著、思文閣出版、2008年）。

きんだい にほん れきし とし こと じょうかまち
近代日本の歴史都市——古都と城下町——

2013(平成25)年7月31日発行

定価：本体7,800円(税別)

編者 高木博志

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

装幀 上野かおる(鷲草デザイン事務所)

印刷
製本 亜細亜印刷株式会社

© Printed in Japan ISBN978-4-7842-1700-7 C3021

執筆者紹介(収録順、*は編者)

*高木博志(たかぎ ひろし)

1959年生。立命館大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。京都大学人文科学研究所教授。
『近代天皇制の文化史的研究——天皇就任儀礼・年中行事・文化財——』(校倉書房, 1997年), 『近代天皇制と古都』(岩波書店, 2006年), 『近代京都研究』(共編, 思文閣出版, 2008年)。

小林丈広(こばやし たけひろ)

1961年生。金沢大学大学院修士課程修了。奈良大学文学部教授。
『明治維新と京都』(臨川書店, 1998年), 『京都町式目集成』(京都市歴史資料館, 1999年), 『近代日本と公衆衛生』(雄山閣出版, 2001年)。

清水重敦(しみず しげあつ)

1971年生。東京大学大学院工学系研究科博士課程単位取得満期退学(建築学専攻)。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授。
『擬洋風建築』(至文堂, 2003年), 『建築保存概念の生成史』(中央公論美術出版, 2013年), 『京都府の近代和風建築——京都府近代和風建築総合調査報告書——』(共著, 京都府教育委員会, 2009年)。

高久嶺之介(たかく れいのすけ)

1947年生。同志大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。京都橘大学文学部教授。
『近代日本の地域社会と名望家』(柏書房, 1997年), 『北垣国道日記「塵海」』(共編著, 思文閣出版, 2010年), 『近代日本と地域振興 京都府の近代』(思文閣出版, 2011年)。

谷川 稔(たにがわ ゆたか)

1973年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。京都大学大学院文学研究科准教授。
『明治前期の教育・教化・仏教』(思文閣出版, 2008年), 『新アジア仏教史14 近代国家と仏教』(共著, 俊成出版社, 2011年), 『岩倉具視関係史料』上・下(共編, 思文閣出版, 2012年)。

高階絵里加(たかしな えりか)

1964年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。京都大学人文科学研究所准教授。
『異海(の)海 芳翠・清輝・天心における西洋』(三好企画, 2000年)。

中川 理(なかがわ おさむ)

1955年生。京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。
『重税都市——もうひとつの郊外住宅史』(住まいの図書館出版局, 1990年), 『風景学——風景と景観をめぐる歴史と現在』(共立出版, 2008年), 『東山/京都風景論』(共編著, 昭和堂, 2006年)。